

修学旅行と
平和教育を
考えました

平和教育

記事内容はわたし個人の見解であり、すべての方への有効性は保証できません。

ご意見などの宛先 horikawassw@gmail.com



小学校の多くは長崎市を旅行先に選び、事前学習するわけですが、平和学習が大きなウエイトを占めています。

中学校もまた、広島や鹿児島・知覧などが含まれるコースで、同様の平和学習をしていることでしょう。

☆1

修学旅行の班別自由行動では、自分たちで調べた場所を、自分たちで立てた計画に基づいて回りました。

この時の経験は間違いなく、社会人になってから活かされています。

では、平和学習についてはどうなのでしょう。

★2

わたしの父は広島で原爆被災地の復旧に携わり、終戦後、出身地・長崎に帰省して復旧に携わりました。当時はなんの疑問もなく、当然のこととして取り組んだようです。

爆弾を吊るした飛行機を操縦して、体当たりしていった若者は、何を考えたでしょう。

教え子に「勇敢に、命がけで戦え」と教えた先生たちはどうでしょう。

☆3

平和学習の後、テーマパークで歓声を上げて帰ってくることを、どのようにセットして教えているのでしょうか。

当時の方が何を考えて暮らしていたか、生命をどのように考えていたのか、それが今のわたしたちの中にどのようにつながっているのか、どのように教えられているのでしょうか。

★4

その教えはとても大事なことで、それが今のウクライナやガザの人、あるいはロシアやアメリカの人について考えることにつながらなければいけませんし、なぜ人は争うのか考えることにつながらなければいけないのではないのでしょうか。

☆5

今日指摘したことは、とても高度な内容で指導が難しいことです。

でも、考えるのは子ども任せで、みやげには何が良い、無事に戻れば良いと願うだけのものでもないと思います。

